

産婦人科医講演

不妊予防を訴え

青森、看護師ら50人前に

不妊治療や予防の知識を深めるための研修会が4日、青森市内であった。県と弘前大学医学部付属病院の主催。同病院の福原理恵医師、准教授の藤井俊策医師の産婦人科医2人が「不妊を予防する」などのテーマで講演。看護師、助産師、保健師ら50人が参加した。

福原医師によると、国内で不妊治療を受けるカップルは99年の28万組から02年には47万組と、3年で1・6倍に増加。だが、不妊治療は経済的、精神的に負担が大きい。現在、不妊予防という考え方が広まってきたという。

同医師によると、不妊の最大の原因は加齢。喫煙、肥満、やせすぎなども不妊要因となる。男性に不妊原因があることもあるため、「女性だけでなく男性にも、また早期教育も通して高校生らにも知識を広めていくのが大切」と話した。

また、藤井医師は「全国では相談センターへの相談が増えているのに、県内では減っている」と述べ、相談体制の強化をうたった。